



ホールの女性組合活動と牧畜民女性のエンパワーマ ント

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2016-04-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ホラ, スラ, 宮脇, 幸生 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24729/00004840

2015年度 国際交流事業——国際シンポジウム

ホールの女性組合活動と牧畜民女性のエンパワーメント

ホラ・スラ、宮脇 幸生

翻訳：山本 雄大

宮脇

「ホールの女性組合活動と牧畜民女性のエンパワーメント」と題して話をいたします。最初に私がホールという牧畜民社会についてお話し、次にそこで活動している「女性組合」について、活動にかかわっているホラ・スラさんに質問をし、それにこたえていただく形で、その活動の様子をお話しいただきたいと思います。なお、エチオピアの共通語であるアムハラ語での会話になりますので、アムハラ語に堪能な山本さんに、日本語に訳していただきます。

ホールはエチオピア西南部の南部諸民族州サウス・オモ県、ケニアの国境近くに住む、人口6000人ほどの農牧民です。ホールの居住地には、ウェイト川という河川が流れており、雨期には上流に降った雨を集めて、大きく氾濫します。その氾濫がひいた後の場所で農耕をおこない、その背後のサバンナで、ウシやヤギ・ヒツジの放牧をしています。

ホールには川沿いに4つの集落があります。ホールは自分たちの伝統文化と社会の仕組みを今でもかたくなに守っていき、それぞれの集落には、宗教的な力をもつ首長がいて、人びとに畏怖されています。また、東アフリカの牧畜社会によく見られる年齢階梯制という社会制度があります。これは、数年ほどの一定の間隔で生まれた人たちを一つの組にまとめ、その組に属する人たちが若いときは、たとえば戦士の、中年になると、集落を管轄する役割を、年をとると下の世代にアドバイスを与える長老の役割を与えるというような、年齢集団の世代ごとに役割を与える社会制度です。彼らはエチオピアという国家に属しながらも、このような伝統的な社

会制度をまもって生きているのです。

けれどもこのような伝統的社會は、きわめて男性中心主義的な社會でもあります。年齢階梯制で世代が上の男性が、権力を握る社會なのです。このような社會を、社會学では家父長制社會と呼んでいます。

この社會の中で女性はどのように生きているのでしょうか。ホールでは女性を、その年齢と社会的な役割に沿って、3つのライフ・ステージに分けて呼んでいます。少女時代の女性を「ハラテ」と呼びます。「ハラテ」とは結婚前の女性で、処女であることが必須とされます。結婚前に妊娠・出産すると、子供は殺され、その女性は隣の民族に追放されます。女性は20歳くらいで結婚します。ホールにとって結婚とは、男性を中心とする親族集団が、女性をウシヤヤギ・ヒツジの家畜と交換するということの意味します。つまり、花嫁の貰い手である男性が、花嫁の家族に、結納としてウシヤヤギ・ヒツジなどを贈与するのです。その交換に花嫁となる女性は、その男性の親族集団に嫁ぎます。嫁ぐ前に、女性性器切除を受けます。

結婚した女性は「ウータンテ」と呼ばれます。そして出産すると、「サレ」と呼ばれ、子供を持つことによって初めて一人前の女性とみなされません。

このようにホールでは女性は子供を生み、集団を維持するという、大事な役割をになっています。それに加えて、非常に多くの労働をします。ウシヤヤギ・ヒツジの放牧をおこないます。畑の耕作もします。朝晩何キロもはなれた所から水を汲み、まきを集めます。食事を作り、子供を育てます。そして穀物を食事にするには、それを粉にひかなければなりません。粉にするのに、1メートル近い長さの石の上に穀物の粒を置き、それを長細い石を両手で持って体全体を前後に動かして押しつぶし、粉にひきます。これは毎日何時間もかかる大変な作業です。

女性はこのようにホール社會で男性にもまして社會を維持する重要な役割をになっているのに、それに見合った社会的な立場にあるとは言えません。家族でも親族集団でも、地域集団でも、物事を決定するのは男性たちです。なによりも、女性はホールの重要な財産である家畜を相続することはできません。なぜなら、女性は結婚で家畜と交換されるので、女性は家

畜、とくにウシと同じだといわれるのです。家畜と同じものが、家畜を所有はできないというのです。

伝統的な暮らしを続けているホールでも、貨幣経済は浸透してきています。塩やコーヒーを買うのにお金が必要です。干ばつで穀物の収穫が悪い時は、市場で穀物を買います。病人が出た時は、病院で診てもらうこともあります。そこでもお金が必要です。これらはみな女性の役割なのに、お金に換えることのできる家畜は、女性のものではないのです。夫に頼まないと、それをお金に換えて使うことはできないのです。夫を失えば、家畜は親族の男性のものとなり、自分のものとはなりません。

このような背景のもとで、「女性組合」は結成されました。

ここで女性組合の結成とその運営にかかわってきたホラさんに、そもそも女性組合とは何かを尋ねてみましょう。

ホラ

ホールでは女性は家畜を持つことができませんでした。ホールの女性組合は、女性たちが集まり、それまでホールの人たちがしていなかった塩やビーズの交易を行い、女性たちが自分たちだけで畑を耕して農作物を市場で売り、女性たち自身が自分たちの財産を作ろうとして結成した組合です。

宮脇

それならば、女性組合はどのような事情で結成されたのでしょうか？尋ねてみましょう。

ホラ

最初に男性しか財産を持たないことを疑問に感じたのが、シルバ・アルゴレという女性でした。彼女は自分よりも年齢階梯が上の有力女性に相談し、女性の立場を改善しようと考えました。そして女性たちで集まり、外部との交渉役として私を選び、女性組合のために働いてくれないかと頼みました。私もそれを引き受けました。

宮脇

なぜ他の男性のところではなく、ホラ氏に交渉役を頼んだのでしょうか？

ホラ

それは私が外部の人と交渉した経験があったということ、そして私は頼まれたことは引き受けるので、女性たちも頼みやすかったということですよ。

宮脇

このように、ホールの女性組合は、当初は少人数で、それも年配の女性を中心に開始されました。けれども一昨年私が調査したときには、人数も100人を超えており、また若い女性たちの数もじょじょに増えていっていました。

それならば、どのようにこのように、なぜ女性組合は発展していったのでしょうか？ホラさんに尋ねてみましょう。

ホラ

組合ができるまで、ホールの住む地域に、近隣の他民族の商人がやってきて、塩やコーヒーを売っていました。お金はホールから出て、他の民族の商人にわたっていたのです。女性たちは、それを自分たちが売って、お金をホールから出ていかないようにと考えたのです。彼らのやり方から学んで、ビーズなどを市場で売り、個々の女性たちが利益を上げられるようになり、女性組合にもお金がたまっていきました。お金が必要な時には、たとえば自分の息子が結婚するので婚資が必要なとき、医者に行ってお金が必要なときなど、組合に入っている女性はそこからお金を借りることができ、それに利子をつけて返しました。他の女性もそれを見ており、これはいい仕組みだということで参加していくようになったのです。このようにして組合員が増えていきました。

宮脇

ここで私から、ホールの女性組合の歴史をもう一度かんたんに整理してみたいと思います。

女性組合が結成されたのは1990年代のなかばです。ホールの女性の立場に疑問を感じた女性が、他の女性たちを集め、ホラ氏と相談し、組合を作りました。そして自分たちの自由にできる家にある穀物をあつめ、お酒を作って売り、少しずつお金を貯めたのです。ホラ氏はそれをもとに、塩やコーヒーを買い、それを女性たちは市場で売り、女性組合の資本金を増やしていきました。

2000年代に入ると、川辺林を切り開き、独自に農耕を始めました。女性組合にとって幸いだったのは、交渉役に選んだホラ氏が、巧みな交渉役だったことです。彼は国際NGOと交渉し、ポンプを購入し、灌漑農業を始めました。



図1 2002年 初期の女性組合メンバーとホラ氏

2000年代後半には、国際NGOであるファーム・アフリカが、個人向けの小規模資金援助を始めました。女性組合に当時参加していた女性たちは、その資金を受け取ると自分では使わず、すべて女性組合の資本金とし

ました。

2010年代には別のNGOから援助を受け、ポンプを3台購入し、トラクターも1台購入しました。さらにその後、2台のトラクターを自費で購入しています。

それならば、女性たちはどのように利益を上げているのでしょうか。それをホラ氏にたずねてみましょう。

女性組合に入っている女性たちは、どのように利益を上げているのですか？

ホラ

塩をアジスアベバから私たちは安く仕入れます。女性たちはそこに自分たちの利益を加えて販売します。さらにそこから組合にもお金を納めます。

宮脇

ホールの女性組合の特徴は、農耕部門と交易部門という2本の柱から成り立っている点です。農耕では、自給用のモロコシだけでなく、それまでホールでは栽培されることのなかった商品作物、ニンジン、タマネギ、ジャガイモ、キャベツ、トマト、トウガラシ、ゴマを栽培し、数十キロ離れた町にもっていき、市場で売りました。

交易では、塩やビーズなどを、ホラ氏がアジスアベバなどの都市まで行き、安く仕入れ、ホールの市場で利益をのせて販売しました。この交易部門では、女性組合時代だけでなく、商品を市場で売る組合員の女性にも利益が入る仕組みになっていました。

このように、女性たちの指令によってホラ氏が塩やビーズを安く仕入れてきます。女性組合はその商品に組合の利益を上乗せしたうえで、個々の組合員に販売します。組合員はさらにそれに自分の利益を乗せて、市場で売ります。そのようにしても、他の交易商人の売る商品よりも安かったので、女性組合の商品は売れました。そして組合自体の資本金も増え、また個々の組合員も自分の利益を得ることができたのです。

次のグラフは、2009年から2012年までの組合の資本金の増加を示したも

のです。

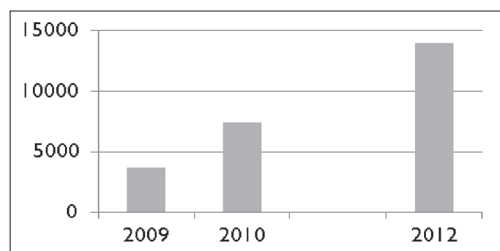


図2 女性組合の資本金の増加 (単位プル)

それならば、このような組合活動は、女性に何をもたらしたのでしょうか？それを尋ねてみましょう。

ホラ

大きな意味で言うと、牧畜民の女性が交易の仕方を知ることができたということが、大きな利益です。それまで外部の商人に流れていたホールの財産を、内部に閉じ込めることができたということです。さらに、自分自身でお金をもうけることができるようになった、さらに、組合の資金が増えることで、必要なときに組合からお金を借りて用いることができるということも、大きな利益です。このような交易の仕方を知ることができるようになったということが、大きな利益です。

宮脇

このように、女性たちは利益を得ることができるようになりました。これは単に経済的な利益を得たということだけでなく、資本主義的な財の運用に適応できるようになったということです。それまでのホールの暮らしは、農耕や牧畜で、土地から得たものを口に運ぶという生活でした。しかし女性組合で組合員の女性たちは、お金がお金を産むというやり方を身につけたのです。次に、これからの女性組合は、何を指すのかを尋ねてみましょう。

ホラ

今は畑でゴマやモロコシを作って販売しています。将来は自分たちのところで、ゴマの油を絞って、家畜がおらずミルクのない家でも、ゴマ油を使って栄養のある食事を作れるようにしたいと思っています。またこのような加工品を、市場で売るようにもしたいと思っています。

宮脇

どうもありがとうございます。ホラさんのお話を引き取ってまとめてみます。

ホールは男性中心主義的な社会です。女性には、財産である家畜を所有する権利はありません。しかし、穀物は女性が自分の裁量を発揮することのできるものでした。女性組合に加わった女性たちは、その穀物からローカルビールを作ることで、女性組合が発展するもとなる最初の資本を生みだしました。

一方で女性組合が発展していった背景には、ホールにも貨幣経済が浸透してきたという状況があります。塩やコーヒーを購入するにも、病院で治療費を払うのにも、お金が必要となってきました。そのような貨幣の重要性が増したために、女性組合はホールの伝統的な財産のカテゴリーにはない、貨幣という新たな財の領域で、男性が手を出すことのできない自分たちの財を形成したのです。

ホールの財は、土地から生産される穀物や家畜でした。一方女性組合の女性たちは、交易をすることで、一足とびに貨幣が貨幣を生むという資本主義的な財の形成方法を身につけたのです。財産を所有・相続する権利を否定されていた女性たちが、近代経済により適応したやり方で財を形成したのは、とても興味深いことです。女性組合は、このようにして、辺境に生きる農牧社会の女性の、経済的な自立と自己決定権の拡大に貢献してきたのです。